

研究機関：広島大学

研究課題名	非 B 非 C 型肝細胞癌の臨床的特徴、治療法、予後に関する後ろ向き多施設 共同コホート研究
研究責任者名	広島大学大学院医歯薬保健学研究科 消化器・代謝内科学 教授 茶山 一彰
研究期間	2017年6月29日（倫理委員会承認後）～ 2022年12月31日
対象者	1991年1月1日～2015年12月31日までに本院 消化器・代謝内科で診断された初発の肝細胞癌患者さんでHBs抗原陰性かつHCV抗体陰性を対象とします。
意義・目的	<p>わが国の肝細胞癌は、そのほとんどはB型あるいはC型慢性肝炎を背景として発生してきました。近年、ウイルス肝炎患者の減少と一般人口にしめる肥満者の増加を背景に、非B非C型肝細胞癌の割合が急速に増加しています。日本肝癌研究会の肝癌追跡調査報告に基づくと、1992年に全体の11%であった非B非C型は2005年には21%まで増加しており、この間の年間肝癌発生数がほぼ横ばいである事を考慮すると、発生数も約2倍に増加していると推定されています。</p> <p>非B非C型肝細胞癌は、ウイルス肝炎関連以外を全て包括する概念です。アルコール性肝炎、非アルコール性脂肪肝炎、原発性胆汁性肝硬変、自己免疫性肝炎など様々な背景因子をもつ雑多な集団であり、その詳細はウイルス肝炎ほど検討されていません。増加しているとは言え、肝癌全体の10～20%の集団を検討するためには多施設から症例を収集する事が不可欠です。</p> <p>本研究の目的は、非B非C型肝細胞癌の臨床的特徴、治療法選択状況、治療後の予後について多施設から症例を収集し、検討を行うことです。</p>
方法	<p>目標調査対象者数は全体5000例。広島大学病院では150例予定しています。</p> <p>調査対象期間は1991年1月1日から2015年12月31日までです。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 対象患者の診療記録（カルテ）から調査項目（肝細胞癌初回診断時の患者背景(性別、年齢、身長、体重、BMI（体重/身長²）、併存疾患、臨床検査データ(血算、生化学、凝固)、治療法の選択状況、治療後の予後）を調査します。2. 調査は承認後～2022年12月31日までの間に行います。3. 調査項目を連結可能匿名化の状態で登録用サーバー（株式会社エーザイ）を介してデータ登録を行います。対応表は提供しません。（個人を特定可能な情報は解析に用いません）
共同研究機関	（主）東京大学医学部附属病院消化器内科：解析 共同研究機関（全国約60施設）：データ提供 株式会社エーザイ：データサーバーの管理
試料・情報の管理責任者	東京大学医学部附属病院消化器内科 教授 小池和彦
個人情報の保護について	調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心

研究機関：広島大学

ください。研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。

問合せ・苦情等の窓口

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

Tel : 082-257-5191

広島大学病院 消化器・代謝内科 診療准教授 相方 浩